令和3年度　学校（自己）評価書 高等学校

東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部

５～１は教員評価（５よい　４おおむねよい　３どちらともいえない　２やや不十分　１不十分）

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営（教頭）	年間教育目標の実践とその点検 現状における課題の解決および改善に努める	・生徒数の増加と新任教員の増加に伴う影響、およびコロナ禍での学校運営の難しさに直面する中、教員一人ひとりが校長の指導の下、学園・学校の教育方針を理解し、担当各部署において教育活動の充実に努めた。 ・引き続き「夢中って、無敵。」のスローガンを掲げ、コロナ対策に苦心しながらも、積極的な生徒募集活動で中学生・保護者から高い評価を得て、自信を深めることができた。 ・保護者・地域との連携やSNSやHPを利用した情報発信に努めた。 ・非常勤講師との意思疎通・連携が難しかった。 ・若手教員が増える中、本校として不十分だったOJTとして、新任研修制度を立ち上げ、継続的な指導を開始した。 ・入学を希望する生徒のレベルが上がってきた中、生徒の満足する学校生活（授業・部活動・学校行事・施設等）を提供できるよう、さらに注力したい。	3.6	・各教員が担当部署の課題を主体的にとらえ直し、それを部署内で共有しながら具体的な行動目標とし、日々の教育活動に熱意をもってあたる。 ・募集イベントでのアピールはもちろんのこと、本校生の頑張りや教育の特色を学校HPやSNS（FB・インスタ）で取り上げて、「見える化」する情報発信をさらに多角的に行う。 ・「働き方」を意識した効率化・合理化の視点を持って業務にあたり、日々の授業や部活動などで生徒と接する時間をさらに豊かにする。 ・非常勤講師を含む教員間の情報共有において、教科・学年ベースで引き続きICTを適切に活用する。 ・新着任教員を対象とした研修プログラムのタイミング改善と充実を図り、業務上のトラブル回避と教員としての成長を促す。 ・教員は、授業準備を丁寧に行うことはもちろん、生徒の学校生活環境を広く見て、課題意識を常に持つ。
学習指導（教務主任）	基礎学力の定着と授業の充実	・進路決定上重要な学園基礎学力定着度試験(4月)に向け、①朝学習、②模擬試験（過去問利用）を実施することにより、生徒の学習意識が高まっている。学習に向かう姿勢も良好である。 ・「チャイムと同時に授業開始」という基本を徹底し、生徒が授業に臨む姿勢および落ち着いた雰囲気の中で積極的に学習に取り組むことができた。コロナ禍における対応策として、ハイブリッド授業を実施した期間もあったが、生徒の集中力および学力の定着を含め、対面授業に勝るものはないと痛感する。 ・ICT機器（共用iPadや教室プロジェクターなど）を活用した授業研究を進めている。総合的な探究の時間などのプレゼンテーションにおいてもその成果を発揮することができた。 ・年間3回の授業評価を通じて授業の見直しを行い、改善を図った。 ・大学進学のための基礎学力養成に工夫を凝らすと同時に、定期試験毎に上位50傑を掲示したり、成績優秀者を表彰することにより、生徒の学習意欲の向上を図ることが出来た。	3.2	・学力は、環境・習慣に大きく左右される。学校として支援・制御できる部分において教員が全力を尽くすと共に、生徒が自ら考えてより良い方策を選びとって学ぶ流れ（雰囲気・システム）を、引き続き家庭とも協力して改善を目指す。 ・校内試験や外部テストを活用して生徒につまずき箇所を気づかせると共に、中等部・高校が連携してIT環境を利用し、「時間や空間に縛られない学び直しの機会」の有機的な活用を目指す。 ・教員は、研究授業や相互授業参観、またオンライン研修も積極的に活用して、授業力の向上を目指して継続的に努力する。 ・大学進学を前提とした基礎学力の定着に、教科担当・クラス担任・学年で協力して対応する。特に、東海大学への内部進学上重要な学園基礎学力定着度試験において効果的な対策をさらに工夫し進める。 ・東海講座（放課後講習）や長期休暇中の講座を有効活用することにより、学び直しや基礎学力の定着に結び付けたい。 ・卒業後の進路内定後も「学び続ける生徒」となるよう、学ぶ内容に終始せず、学ぶ意義についても語りかける授業を心掛ける。・ここ数年、評価が横ばいの数字である。少しでも評価が向上するよう教員が一丸となって取り組む。
クラス指導（生徒指導主任）	・遅刻・欠席のないクラスづくり ・お互いが高めあえるクラスづくり	・担任は学年主任のサポートを得ながら生徒間の好ましい人間関係の構築に努め、より良いクラスづくりができた。 ・担任は個々の生徒にクラス・学校の一員としての自覚を促し、その役割を十分に果たさせることができた。 ・コロナ対策での出席停止が増える中でも、ICTを活用した生徒の動向確認により、遅刻や欠席の少ないクラスづくりに努めた。 ・コロナ禍のため規模の縮小等もあったが、できるだけ例年通りの行事を対策を講じながら行った。	3.7	・学年主任を中心に、担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと管理すると同時に頭髪、服装の指導にも常に心がける。 ・iPadの所有が全学年となる年度となるので、オンラインを含め生徒の確認をまめに行い、生徒個々の把握をする。
生活指導（生徒指導主任）	社会ルールとマナー指導の徹底	・本年度も生徒部として、「挨拶、礼儀、身だしなみ、美しい環境づくり」を目指し活動したが、コロナ禍による学年行事や部活動行事の減少もあり、例年よりも生徒に浸透しにくい部分も見られた。 ・登下校のマナーについて、近隣からの苦情も減少した。 ・教職員は校内の設備、整備の指導を意識して行った。いつでも、どこでも常に美しい環境を今後とも継続していくことが必要である。 ・生徒の頭髪、服装に関しては、生徒の自覚を促すと同時に全教員で同じ視線で徹底していく必要がある。	3.8	・地域の人々に「挨拶、礼儀、身だしなみ、美しい環境つくり」を目標に教育活動を実行していることを認識していただけるような生徒指導をしていく。 ・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと管理すると同時に頭髪、服装の指導にも常に心がける。 ・登下校のマナーについて、引き続き指導を強化しながら、自転車事故等起こさないように自覚した行動ができるように指導を行う。 ・公共の場でも常に生徒が本校の一員であることを自覚した行動ができるように指導を行う。
進路指導（進路指導主任）	キャリア意識や適性からの進路発見と主体的な進路準備	・学年フロアや教室の掲示において、進路に係る情報を随時提供し、意識の向上を促し、準備が周到にできるように喚起した。 ・特に、東海大学への進学のメリットを強く押し出した指導を全体の説明会、および担任から各クラスにおいて実施した。 ・小論文や、自己推薦書、志望理由書、面接など、それぞれの進路（進学、就職）での試験にあたり、個別指導を念入りに行った。 ・各学年の段階に応じ、キャリア教育の観点に即した進路説明会の開催、また外部の業者による校内でのガイダンスの実施など多岐にわたる指導を実施できた。	3.4	・基礎学力の重要性を知らしめ、進路指導部として学力向上につながるようなアプローチを試行したい。 ・東海大学進学のメリットを十分に伝え、具体的に提示していく。指導と検討が十分でない中での進路選択とならないよう、早めの進路意識高揚と実際的な調査や進路活動を実施する。 ・就職希望者に対しては、社会に出ることの厳しさ等を知ってもらうために、インターンシップのようなイベントを実施する。 ・「進路選択（出口指導）」というよりも、「キャリア」を意識した指導をするために進路やキャリアに対する意識を常にもたせるような、継続的な指導を計画する。
特別活動（生徒主任）	生徒会活動と部活動の活性化	・部活動への取り組みに対する評価は、生徒・保護者・教職員ともに共通して高い。 ・委員会活動や係活動への取り組みを通した指導はまだ十分とは言えない。 ・強化部を中心に、自主的な校内の美化・清掃を日常的な指導の中で行うことができた。いつでも、どこでも常に美しい環境を意識することは今後も継続したい。	3.9	・勉強と部活動の両立、部活動よりまず勉強、と伝えてきたが、意識の向上は引き続き指導が必要な課題である。 ・部活顧問は生徒の学習環境をきちんと管理すると同時に、頭髪・服装の指導も常に心がける。 ・登下校、部活動への移動マナーについて、引き続き指導を強化しながら、自転車事故を起こさず、周囲の安全にも配慮した行動ができるよう指導を行う。
研究・研修（研究主任）	公開授業の定期化 及び教員研修を充実させる	・本年度はコロナ禍のため保護者向け公開授業を中止した。 ・教員の授業力向上を目的に、学期末ごと授業評価アンケートを実施（生徒対象）。その授業評価アンケートの結果からベストティーチャーを決定した。 ・新任教員の研修を1年かけて実施。研究授業、振り返り、他の授業見学を通して授業力向上に務めた。 ・教員研修の実施。①授業見学（チェックシートを使って、担当者にフィードバック）②道徳教育への取り組み③学校教育にSDGsを導入。 ・総合学習の活性化を目的に、「高校現代文明論」の公開授業で他の付属高校と「探求」について研修会を行う予定だったが、コロナ禍のため中止した。 ・コロナ禍ではあるが、学校報『SHOYO Nowadays』を月１回発刊（4月以降）することで、生徒・保護者へ校内の様子を伝えることができた。また中等部生の活躍を紹介する「羽ばたき」を4月に発行。PTA広報誌「海涛」の制作では広報委員にご尽力いただいた。	・教員の指導力向上を目標に、授業見学及びICTを利用した教員対象アクティブラーナーを積極的に利用して、定期的な教員研修を実施することで、教員の更なるスキルアップを目指す。 ・総合学習のあり方について、本校では現代文明論の果たす役割が大きい。道徳教育やSDGsなど社会問題と関連付けて考えるなど内容の充実を図る。 ・ボランティア活動及び防災教育など、地域に開かれた取り組みを積極的に展開して行く。	
その他				